資料１（別紙）

第１章から第３章の主な修正点（一次素案→二次素案）

変更箇所	二次素案ページ	一次素案ページ	変更内容
目次			基本目標２の「住み慣れた地域で安心して暮らす」を「住み慣れた地域で支え合いながら暮らす」に修正
第１章　計画策定の考え方			
１　計画の趣旨	1	1	「団塊ジュニア世代が65歳以上となる令和22年頃」を「2040年頃」に修正。
第２章　高齢者・介護を取り巻く現状と課題			
１　高齢者福祉を取り巻く国の動き・社会情勢	3～4	3～4	国の動向を踏まえた上で、本市における施策推進について「地域包括ケアシステムの深化・推進」「認知症施策・権利擁護の推進」「介護サービス基盤の計画的な整備」「介護人材の確保」の現状・課題に分けて記載を整理。
２　本市の高齢者の現状と課題	5	－	各種調査・統計データの活用状況を整理した総論ページを新設。活用データ一覧を追加。
（１）人口・高齢化の推移と構造の変化	6	5	高齢者人口（前期・後期高齢者）の推移を表で追加。
（２）高齢者世帯の状況	7	6	「高齢者を含む世帯割合」中心の記載から、「高齢者のみ世帯の増加」を中心とした現状・課題へ見直し。
（３）要介護（要支援）認定者の状況	8～9	7～8	項目名を「要介護（要支援）認定者の状況」に変更。認定体制確保だけでなく、健康づくり・介護予防・重度化防止の必要性を追記。 「年齢別の認定者数･認定率」グラフ数値を修正
（４）介護・介助が必要となる原因	10	9	自立支援・重度化防止の視点を追加。
（５）日頃からの健康や介護予防への取組	11	11	介護予防の重要性や運動・栄養・趣味活動等、多様な取組の必要性を追記。
（６）転倒の状況と外出を控える要因	12	10～11	項目名を「転倒の状況と外出を控える要因」に変更。外出控えによる活動量低下や社会参加機会減少の視点を追加。
（７）生きがいづくりと社会活動	13～14	12～13	生きがいと社会参加が健康づくりや介護予防につながる視点を追加。

変更箇所	二次素案ページ	一次素案ページ	変更内容
（８）地域包括支援センターの状況	15	13	項目名を「地域包括支援センターの状況」に変更。グラフを「相談形態別相談件数」から「相談内容別相談件数」へ変更。相談内容の複雑化・複合化が分かる内容に見直し。
（９）在宅医療と介護の連携	16	14	項目名を「在宅医療と介護の連携」へ変更。ACP（人生会議）や意思決定支援の視点を追加し、課題を整理。
（10）認知症の状況	17～21	15～18	項目名を「認知症の状況」へ変更。相談窓口だけでなく「介護者が不安に感じる介護」のグラフを追加し、課題を整理。
（11）在宅介護の状況	22	19	介護離職だけでなく、介護サービス提供体制の維持・確保や相談支援体制の充実を課題として整理。
（13）地域での支え合い	25～26	22～23	項目名を「地域での支え合い」に変更し、「①地域の支え合い意識」「②地域の支え合い状況」の２項目に整理。
３　介護保険制度の状況	31	28	介護給付費、地域支援事業費の見込値を反映し、グラフ及び分析内容を更新。
第３章　計画の基本方針と基本目標			
１　基本方針	37	34	高齢化の進展や高齢者のみ世帯、認知症高齢者の増加など、本市を取り巻く状況の変化を踏まえた記載に見直し、計画の基本的な考え方を整理。
基本目標２　住み慣れた地域で支え合いながら暮らす	39	36	名称を「住み慣れた地域で安心して暮らす」から「住み慣れた地域で支え合いながら暮らす」へ変更。